

Kume Island

Cultural Spot Guide Map



久米の息吹を感じる島散歩

Half Day Course ①〜⑧

- 県道
- ⊗ 学校
- ⊕ 病院
- Ⓜ その他の道路
- 〒 郵便局
- 🏠 宿泊施設
- 📶 信号機
- 村役場
- 🚗 ガソリンスタンド
- ♀ バス停
- 👮 交番・派出所

※地図に掲載されている情報は時間とともに変化する場合があります。

1 Cultural Center and Museum

琉球王府時代の集落や租税・間切機構などについて絵図・文書資料などで展示しています。租税として生産されていた久米島紬の歴史や、久米島の地勢を活かした行政上の役割など、琉球王府時代の久米島の様子を常設展示室で見てください。

Adult Entry: 300yen

2 Uezu Historic House

(国指定重要文化財建造物)
上江洲家は代々具志川間切地頭代を勤める要職にありました。現在の建物は乾隆19年(1754)、7代智英によって建築されたとの記録があります。新築当時は母屋と下屋が隣接して建てられていましたが、その後雨端瓦葺きとなり、明治24年(1891)下屋改築の際に母屋と下屋を接続し、瓦に改められました。現在の建物は当初の建築ですが、平成4年度から平成6年度にかけて住宅・石垣などの半解体修理が行われました。屋敷の周囲は立派な石垣で囲われており、「石垣殿内」と呼ばれています。南側の表門を通ると石牆のひんぶんがあり、北側及び石垣の東西を福木に囲まれ琉球王国時代の民家の屋敷構えを今でも残しています。建物は木造平家建てですが、茅葺きから雨端瓦葺き、総体瓦葺となり、その変遷を良く伝えており、この形式の葺方は天后宮にも見られます。

3 Chinbei Shrine

(町指定史跡)
部落時代から集落のノ口を統括するキミという神職が置かれていました。按司時代には按司の姉妹神として、祭事を司る神職のキミがいて、王府には三十三君の神女組織が設けられていました。古くは君南風もこの三十三君の1人でした。弘治13年(1500)尚真王代に、八重山のオヤケアカハチを征伐する首里軍に従軍し、君南風の計略により大勝利をおさめ、国王より恩賞を賜ったとされています。この時代以来、君南風は久米島の最高神女として、島内のノ口や神女を統括し、島民の精神的支配者になりました。「おもろそうじ」に「中地綾庭」とうたわれる君南風殿内は歴代君南風の祭祀殿です。康熙(こうき)6年(1667)三十三君は廃止されましたが、伊平屋のあむがなし、久米島の君南風、今帰仁のおおりのやえの三君だけは残されました。

4 Tsumugi Weaving Pavilion

久米島紬の起源は古く15、6世紀まで遡るとされます。琉球王府時代に貢納布(租税代納品)に定められると、役人の厳しい管理のもと織られるようになりました。製作に関するすべての作業を一人の織子が行うこと、染織には島内産の天然材料が使用されることが特徴です。久米島紬ユイメール館の中に展示資料館が併設されています。館内では久米島紬の歴史が学べる他、反物やグッズなどの販売も行われています。

Adult Entry: 200yen

5 Old Nakazato Town Office Wall Ruins

(石牆:国指定重要文化財建造物)(跡地:沖縄県指定史跡)
琉球王朝時代、仲里間切の蔵元(役所)があったところで、敷地面積が532坪(1,755.6m²)あります。石垣は、乾隆28年(1763)、地頭代宇根親雲上繫時の頃築かれたものです。石垣はすべて珊瑚石灰岩で、高さは平均で3m前後、厚さは下が約1.8m、上が約1.2mあります。南側や中央に設けられた正門には、役場が比嘉に移転する(大正13年頃)までは四脚門の屋門が有りました。

6 Tenkougu Shrine

(沖縄県指定有形文化財建造物)
ブサード(菩薩堂)と呼ばれ、三間四方の入母屋造り、本瓦葺きの建物です。四方に雨端がめぐらされ、室内正面に仏壇を設け、厨子(すし)を安置しています。その中に天妃妃像を中央にして左右に千里眼、順風耳の二神が祀られていましたが、いずれも損壊しています。1756年、尚穆王の冊封のために来琉した冊封使一行(正使全魁、副使周煌)が真謝泊港外で台風のため座礁し、地頭代宇根親雲上繫聯をはじめ、間切住民らにより全員(200人余)無事に救助され、冊封の儀式を行うことができました。これを神佑として感謝の上、進言により1759年に天后宮が建立されました。また、同敷地内には「琉球国新建姑米山天后宮碑記」の石碑があります。

Adult Entry: 150yen

7 Ancient Cycad Trees

(沖縄県指定天然記念物)
地頭代を勤めた旧家喜久村家(屋号上比嘉殿内)の庭にある高さ(長さ)4mと6m余もある二株の大ソテツです。このソテツの樹齢については250年若しくは300年といわれていますが、同家の家譜にもソテツに関する記録がなく、口碑も伝わっていないため不明です。
真謝から移転してきて、宇根村創建の頃に植えられたか、或いは喜久村家の六世繫聯(地頭代)の時に1756年(乾隆21)宇根真謝の屋敷林を伐り払って、榎木チャーギ、福木を植えた時(公孫姓家譜)に庭を造ってソテツを植えたなどの諸説があります。

8 Sonami Beacon

ソナミの烽火台は久米島町の東部、真泊港の南側に位置する標高40m程の小高い丘にあります。
烽火台は別名火焚石とも呼ばれ、船が通行したとき、それを知らせる烽火を上げた場所のことです。この烽火台は、二十数年ほど前に石積みを取り壊され、今では烽火台跡の大石(高さ約2.5m、直径約7m)だけが残っています。このソナミの烽火台は主に中国への船の往来に備えたもので、船が見えると烽火台で火をたき、渡名喜島へ通報、渡名喜島から座間味、渡嘉敷、沖縄本島の小嶽へ次々に烽火をあげて伝達した史跡です。